

年 組 名前:

命の尊さ、自然 考えて

甲州・元中学教諭が小冊子



生命の大切さを考える小冊子を製作した内田智之さん
＝甲州市塩山上於曾

内田さんは1982年から県内の公立中教諭を務め、2019年に塩山中校長を最後に定年退職。

教員時代の最大の課題は、いじめや差別をなくし、子どもが安心して学べること。いじめ、差別、



12テーマ 対話形式で

甲州市塩山上於曾の元中学教諭内田智之さん(65)は、命の大切さを考える小冊子「アオイとの対話 いじめ・差別・戦争をなくし、地球環境を守るために」を製作した。命のつながりや差別の原因、自然の働きなどについて考える内容。内田さんは「自分や友達を大事にすることや地球環境を見つめ直すきっかけになってほしい」と話している。

間もなく、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)の実現を目指すNPO法人「SDGsネットワークワークやまなし」を設立した。「気温が35度を超えると部活動が中止になるなど、温暖化により子どもを巡る環境が悪化している。何かしたいと思った」と語る。

〈鈴木なつ美〉

戦争には共通点として「生命の軽視」があると考えた。命の成り立ち、深さを理解してもらおうと、冊子では「命のつながり」「個性とふつう」「自然界に学ぶ」「植物」など12のテーマで展開している。子どもの「アオイ」と「私」が登場し、アオイの友達が仲間はずれにされた話を皮切りに、それぞれのテーマを対話形式で取り上げている。

「命のつながり」では、自分が生まれるまでにどれくらいの人の命が繋がっているかをアオイが計算する内容。内田さんが教員時代に実際に授業に取り入れていたもので、「1人でもいなくなったら自分は存在しない。それぞれが厳しい時代を生き抜いて、自分の命に繋がっていることを学んでもらいたい」と語る。

人間以外の生命についても考えてもらおうと、植物、昆虫、微生物などのテーマ別に地球環境を見つめ直す内容も。「人間も自然界の一部。あらゆる生き物のおかげで生かされていることを学び、地球環境を守ることにつなげてほしい」との思いを込めた。

全66ページ。県内の全小中学校に寄贈していて、道徳の授業で活用してもらいたいという。内田さんは「今つらい思いをしている子どもや大人にぜひ読んでもらいたい。命の大切さを知り、人間関係や自然環境など、安心して生活できる基盤をつくってほしい」と話している。

(2024年12月27日付 山梨日日新聞17面)

問1

元中学教諭の内田智之さんが、小冊子を製作しました。なにについて考える内容ですか。

.....

問2

冊子では、なにをテーマに展開していますか。3つ答えてください。

.....

問3

冊子はどこに寄贈し、どのように活用してもらいたいと考えていますか。

・寄贈先: ・活用: